

論文

教科（社会科）の中で取り組む食育の実践 —くらしを支える情報—

帝京大学教職センター・教育学部 松 波 紀 幸

<要 旨>

本研究では、社会科の学習の中で、食育のねらいを達成することを目的としたカリキュラム開発を行った（Fig.1）。児童に「食の安全に関する情報」を主体的に収集し、判断・選択する力などを身に付けさせる中で、社会科のねらいを達成できるようにカリキュラム及びテキストを開発した。カリキュラムの有効性を検証するために、開発したカリキュラム及びテキストをもとに検証授業を行い、検証授業の事前と事後に質問紙による調査を児童に行った。その結果、児童の食の安全に対する意識が高まるとともに、自信をもって食品を選択することができる児童を育成することができ、カリキュラムの有効性を確認することができた。

<キーワード>

食育 社会科

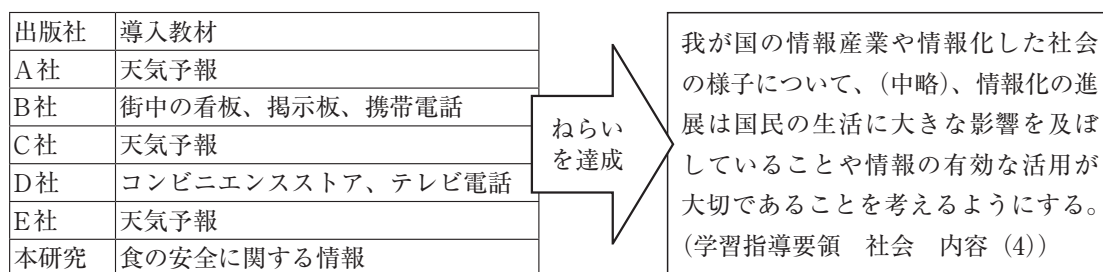


Fig.1 既存の教材と本研究の教材の位置付け

1. はじめに

近年、児童の問題行動が多発し、児童に日々の生活の積み重ねで起きる生活習慣病予備群が増加していると言われている。これらの要因として、児童の食事環境と食事内容によるものも原因として挙げられ、看過できない問題である。各学校では、食に関する指導の充実が急務とさ

れている。

そこで、学習指導要領（平成20年）では、学校における食育の推進や安全に関する指導を総則に新たに規定するなどの改善を行っている。発達の段階を考慮して、食育の推進等を、教科等の特質に応じて適切に行うよう努めることと定めた。

学校における食育の推進においては、栄養の

バランスや規則正しい食生活、食品の安全性などの指導が一層重視されなければならないとされた。また、これらは教科等の内容と関連させた指導を行うことが効果的であるとされている。さらに、食に関する指導に当たっては、栄養教諭等の専門性を生かすなど教師間の連携に努めることなどを通して、学校給食の教育的効果を引き出すよう取り組むことが重要であるとされている。

以上のような背景や国の方針を受けて、東京都教育委員会をはじめとして、各区市町村教育委員会では、各学校に対して、食に関する指導の一層の充実を求めるとともに、特別活動（学級活動）や家庭科、総合的な学習の時間以外の各教科等においても教科の特性を活かしつつ、食に関する指導を実施するように各学校に指導・助言している。

そこで、本実践校においても食に関する指導の充実を図るために、学習指導要領の趣旨にのっとり、教科指導の中における食に関する指導のカリキュラム開発を行うこととした（Table1）。

Table1 本研究の意義

食育が実施されていた従来の教科等	改善の視点	本研究
特別活動（学校給食） 総合的な学習の時間 家庭科	左記以外の教科等でそれぞれの教科等の特性を生かし、食育を実施していく。	社会科（第5学年） 食の安全に関する情報を導入教材として教科のねらいを達成する

2. 児童の実態

実践校第5学年の2学級55名の児童に対して、質問紙（Table2）による調査を実施した（H20年）。調査の結果、91%の児童が自ら食品を買うことがあると回答している。しかしながら、食品を選ぶ際に、特に何も気にしないで買う児童が24%いることが判明した。食品の安全性について何らかの情報を元に判断し、食品を購入する

児童がいる一方で、何ら情報や指標をもたずに食品を購入している児童がいることが明らかになった。…A（設問1選択肢②）

また、学校給食の安全性についての質問に対しては「学校給食が安全である」と考えている児童は半数以下であり、当時の食の安全に関する報道などの影響も少なからずあると思われるものの、学校給食に対する理解が不十分であることが判明した。…B（設問2）

その他、児童自身が「自信をもって安全な食品を選ぶことができる」か尋ねたところ「自信をもって選べる」と回答している児童は6割程度にとどまり、食品の安全性を確認するための指標がまだ身に付いていないことが伺える。…C（設問3）

Table2 児童用質問紙

設問1	あなたは、今までに食品を選ぶ時に参考に使っているものはありますか。あてはまるもの全てに○をつけます。	※複数選択可
①	自分で買い物はしない。	9.09%
②	買い物はするが、気にしたことはない。	23.64%
③	食品に関する事件、事故について放送される、テレビ・新聞などのニュース	56.36%
④	食品の表示（添加物）	20.00%
⑤	賞味期限、消費期限	69.09%
⑥	食品の表示（例 有機野菜かどうかなど農薬に関する情報）	27.27%
⑦	食品の表示（産地）	47.27%
設問2	あなたは、学校の給食が安全だと思いますか。1つ○をつけます。	※複数選択可
①	あまり考えたことはない。	28.3%
②	安全だと思う。	43.4%
③	安全だとは思わない。	13.21%
④	わからない。	15.09%
設問3	あなたは自分で安全な食品を選ぶ力があると思いますか。1つ○をつけます。	
①	はい	5.66%
②	どちらかといえばはい	54.72%
③	どちらかといえばいいえ	37.74%
④	いいえ	1.89%
設問4	あなたが、食品の安全に関する事件、事故の中で知っていることをすべて書きましょう。箇条書きでかまわないので、全て書きましょう。	※自由記述

一方で、設問4のように食の安全に関する事件・事故で知っていることをあげさせると、多くの児童がマスメディアで取り上げられている「米」「餃子」「ミルク」などの事件・事故を回答していた。…D（設問4）

以上のことから本学年の児童は、Dのように断片的な情報に触れる中で食の安全についての興味・関心は高いことがわかる。本カリキュラムを開発するうえで教材として食の安全に関する情報を用いることは有効であると考えた。

A、Bで述べたように「食品を特に何も気にせず購入する児童」や、「自信をもって食品を選べない児童」がいることから食の安全に関する情報の主体的な収集の仕方や判断・選択の仕方を児童に学ばせ、体験的に学習をさせることで、食に関する指導の目標の一つである「正しい知識・情報に基づいて、食物の品質及び安全性等について自ら判断できる能力を身に付け」させたいと考えた。

なお、実際に食品を収集した情報をもとに選択させる場面においては、栄養士を授業に招き児童に助言を与える場面を設定するとともに、Cにあるような学校給食に対する理解を深めるために栄養士の学校給食に対する思いや食材の選定から調理についての理解を深めさせる配慮もすることとした。

前述のように本カリキュラムを構成し、食の安全に関する指導を通して、身の回りにある様々な情報が身近な生活場面で役立てられていることに気付かせ、情報を主体的に収集・選択して活用し、表現することの大切さについて考えさせることで社会科の目標を達成させることとした。

3. 研究の仮説

児童に身近な食の安全に関する情報を体験的な学習を通して学ばせることで、児童に食の安全に対する情報の収集、判断・選択及び表現の仕方が身に付き、意識が高まるとともに、社会

科のねらいである情報化の進展が国民生活に大きな影響を及ぼし、情報の有効な活用が大切であることを考えることができるだろう。

4. カリキュラム開発にあたって

本カリキュラムを構成するにあたり、工夫・改善したことは以下のとおりである。

4.1 授業形態の工夫

- (1) 本実践校では、じっくりと考える時間の確保ということで、各教科で自分の考えをもつ時間の確保に努めている。本単元においても自分の考えをもつ時間を保障し、じっくりと考えることを指導できるように留意した。
- (2) 児童が食の安全に関する情報（既習事項）等を活用して、身の回りにある食品を選択した際に、食の専門家としての栄養士が助言し、児童に食の安全に関する情報の生かし方についての理解をより一層深められるようにした。

4.2 指導方法の工夫

- (1) 学習指導要領（平成20年告示）では、各教科等と道徳の時間の関連についてより一層明確に示されることとなった。それを踏まえ、本単元においても道徳の時間に学習したことが社会科の学習に生きるようにインタビューを行う前に「心のノート」を活用し「礼節」について学習する機会を設けることとした。
- (2) 家族や街の人のインタビューを通して得た、食の安全に関する情報の活かし方について、実験を通して体験的に深める時間を総合的な学習の時間として設けた。
- (3) 本時の導入時に、前時までの学習を短時間で振り返ることができるようにパワーポイ

ントやプロジェクター等の視聴覚機器を活用することとした。あわせて、児童用テキストおよび教師用指導書自体もパワーポイントで作成し、必要に応じて授業の中で提示しながら授業を展開できるように工夫した。

4.3 教材の工夫

- (1) 社会科の学習のねらいを達成した上で、食育のねらいが達成できるように、第5学年の「内容」の中から学習事項を選択した。
- (2) 単元を構成するにあたっては、学習指導要領(平成20年告示)を踏まえて作成した。(指導は現行の指導要領によるが、平成21年から一部、平成23年から本格実施のため、研究は学習指導要領(平成20年告示)を踏まえるべきと考えたため。)
- (3) 社会科の目標を達成しつつ、「食の安全」を学習するために、現行の本市採択教科書(第5学年)の中のどの単元に位置づかわるかを考えた。そこで、「1.食料生産を支える人々」「2.工業生産を支える人々」「3.くらしを支える情報」「4.住みよいくらしと環境」(いずれも実践校所在市採択の教科書大単元名)のうちの「1.食料生産を支える人々」または「3.くらしを支える情報」が妥当であると考えた。

次に、「3.くらしを支える情報」については、「内容の取扱い」(新指導要領)において、「アについては、放送、新聞などの中から選択して取り上げる」とある。これは、事例として取り上げる産業の範囲を示すものであるため、「新聞」記事を活用しつつ、実生活に役立つように食品表示等についても資料として取り扱うこととした。(根拠:「学習対象への関心や学習意欲・態度とともに、学んだことを生活に生かしていこうとする態度を評価することが大事」(「授業を変える 子ども(供)を生かす

評価・評定Q&A 平成15年10月 東京都教育庁 指導部)とあり、生活に生かせるような資料を取り扱うことが妥当であるため。)

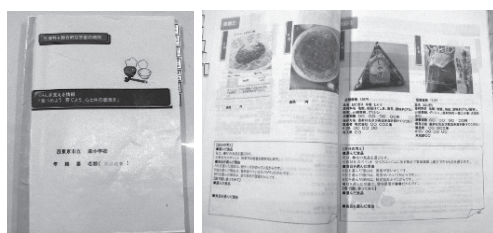
なお、学習指導要領(平成20年告示)では「内容(4)」の内容構成が変わった。理由としては、産業構造のボーダレス化、従来の産業学習だけでは、子供をとりまく社会生活の実態に即した学習が構成しづらい、マスメディアだけでなく、公共的なサービスとの関連についても目を向けさせ、情報の有効活用をこれまで以上に考えさせる必要があるためである。この学習をとおして、情報を発信する側に求められる役割や責任の大きさ、情報を受け取る側の正しい判断の必要性などについて考える学習が必要であり、本単元は特に後者の役割を十分担うものとなると考える。

今年度の本校の授業改善推進プラン全体計画における「今年度考えていきたい課題」に「課題解決するための、適切な資料の選択・活用能力を育てる」がある。本単元は、この項目に対応する。また、今年度重点とする授業の改善ポイント(社会科)には、「教師はできるだけ複数の情報を用意し、そこから類似点、共通点、相違点を発見する場面を多く作っていく必要がある。またひとつの資料からわかることを箇条書きにしたり、そう考えた根拠を明らかにさせたりする発問を心がけていく」とあり、授業を展開する際には、複数の資料を用意するなど配慮することとした。

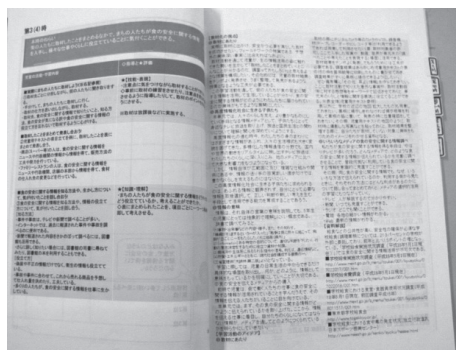
- (4) 本市採択の教科書「くらしを支える情報」では、「天気予報」を導入教材として使用している(他社教科書についてはFig.1参照)。本単元を改編するにあたり、「食の安全に関する情報」を取り上げたが、天気予報のように、「食の安全に関する情報」がどのようにして伝えられているかを体系立てて扱うことは困難である。(天気予報は、

人工衛星の情報や各地の観測所の情報が気象庁に集約され、それが関連団体や国民周知される仕組みになっている。本実践当時、食の安全に関する情報は、国民や内部告発などにより消費者センターや官庁、警察などさまざまなところに情報が寄せられ、それが集約されて再発信される過程が複雑である。政府広報によると平成21年度中に、消費者庁の設置が構想されているが、それを待つ必要があった。) そこで、本単元では、小学生の発達段階を考慮し、複雑な情報収集・発信の過程までには深入りしないこととした。

- (5) 新学習指導要領では、教科の発展は教科の学習で行うこととされている。そのために総合的な学習の時間の時数が削減されることとなった。また、「習得、活用、探究」のうち、「習得、活用」は主に教科で、「探究」は総合的な学習の時間で担うこととされた。本学習では、それぞれの教科、時間の役割分担が明確に行われるように構成した。



【左 開発した児童用テキスト及び教師用指導書】
【右 児童用テキストの中身 一例】



【上 教師用指導書 左は本時の流れ（指導案）と右は指導上の留意点等】

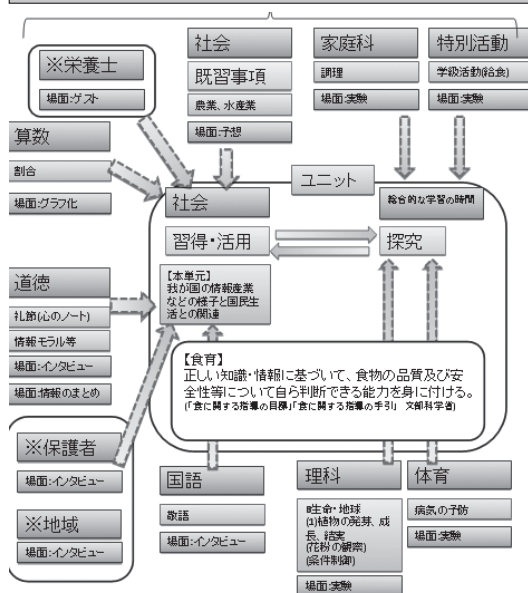
食育と教科の関連

【食育】

心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事の仕方を理解し、自ら管理していく能力を身に付ける。〔「食に関する指導の目標」「食に関する指導の手引」 文部科学省〕

■「主食・主菜・副菜とバランスのとれた食事の大切さが分かり、簡単な調理をしようとする子」(本校高学年 目指す児童像)

※バランスのとれた食事の土台には食物の安全性がある



5. カリキュラムの検証

本カリキュラムの有効性を検証するために質問紙による調査と児童による学習の振り返りを行った (Table3)。

5.1 質問紙による検証結果

児童の意識の変容を統計的に処理する際に、Pearsonの χ^2 検定を用いた。

分析の結果、いずれの指標についても児童の意識に伸びが見られた。特に、食品の買い物中における意識 (設問1②) には有意な差が見られるとともに、食品表示に対する意識にも有意な差が見られ、本カリキュラムで児童が学習す

ることを通して、児童には、食の安全に関する指標が備わることが裏付けられた（Table4）。

Table3 児童調査について

調査対象	自校第5学年児童55/55名
調査期間	平成20年10月～12月
調査の種類	パネル調査
調査手法	質問紙法

また、学校給食に対する意識も栄養士の話と指導の過程に組み込むことにより理解が深まるとともに（ $\chi^2(1, N=110) = 22.099, p < .01$ ）、児童自身に安全な食品を選ぶ力が身に付いた（セルのうち20%の期待度数が5未満であり、カイ2乗に問題がある可能性があるため判定不能）（Table5）。

Table4 児童の意識の変容

1①自分で買い物はしない。	行%	はい	いいえ
	事前	9.09	90.91
	事後	9.09	90.91
$\chi^2(1, N=110) = 0.000, n.s.$			
1②買い物はするが、気に入ったことはない。	行%	はい	いいえ
	事前	23.64	76.36
	事後	9.09	90.91
$\chi^2(1, N=110) = 4.251, p < .05$			
1③食品に関する事件、事故について放送される、テレビ・新聞などのニュース	行%	はい	いいえ
	事前	56.36	43.64
	事後	72.73	27.27
$\chi^2(1, N=110) = 3.218, n.s.$			
1④食品の表示（添加物）	行%	はい	いいえ
	事前	20	80
	事後	65.45	34.55
$\chi^2(1, N=110) = 23.219, p < .01$			
1⑤賞味期限、消費期限	行%	はい	いいえ
	事前	69.09	30.91
	事後	74.55	25.45
$\chi^2(1, N=110) = 0.404, n.s.$			
1⑥食品の表示（例 有機野菜かどうかなど農薬に関する情報）	行%	はい	いいえ
	事前	27.27	72.73
	事後	61.82	38.18
$\chi^2(1, N=110) = 13.285, p < .01$			
1⑦食品の表示（産地）	行%	はい	いいえ
		47.27	52.73
		74.55	25.45
$\chi^2(1, N=110) = 8.591, p < .01$			

Table5 児童の意識の変容2

2 あなたは、学校の給食が安全だと思いますか。1つ○をつけます。（1はい 2どちらかといえはい 3どちらかといえはい 4いいえ）	行%	1	2	3	4
	事前	28.3	43.4	13.2	15.1
	事後	2.04	85.7	8.16	4.08
3 あなたは自分で安全な食品を選ぶ力があると思いますか。1つ○をつけます。（1はい 2どちらかといえはい 3どちらかといえはい 4いいえ）	行%	1	2	3	4
	事前	5.66	54.7	37.7	1.89
	事後	42.3	55.8	1.92	0

5.2 児童の振り返りから

児童の学習の振り返りには、食の安全に関する情報をどのように収集、選択・判断していくかを理解したこと、情報の真偽の確認の仕方やマスメディアの利用方法などについて書かれている。本カリキュラムを実施することにより、社会科のねらいを達成しながら、食育のねらいを達成することができていることが判明した。

以下、2名の児童の振り返りを掲載する。

A児

私が情報に関して学んだことは、次の二つです。

まず、一つは情報についてです。ふだん何気なく使っている情報ですが、この時間には情報とはどういう意味でどんなことに気をつけるのかを学習しました。情報の意味は、国語辞典を使って調べました。国語辞典にはこう書いてありました。「様子を知らせることまたその知らせ。考えや行動のもとになる。」です。

どういうことに気をつけて利用するかは、二つ以上の情報を使うことだと私は考えました。それは、一つの情報では本当なのか、ウソなのか分からないし、その所だけが書いたり言ったりしているかもしれないので「二つ以上」と考えました。

もう一つは「食の安全」に関することです。このことで私は街の人や、家の人に聞いたりしました。学んだことはお店の人とお家の人での情報の取り入れ方の違いです。私がインタビューした「A店」ではメーカーからのメール、ほかのお店では本店・上の人からの知らせが多いのに対し、お家の人はテレビのニュース・インターネットのニュースを使って取り入れるやり方が多かったです。お店の人はなぜメールや上の人からの情報を使うかという「お店が新聞・テレビで食の安全に関する情報を、取り入れていると返品などの作業に遅れてしまうから」と私が訪ねたお店の店長さんがいっていました。

この学習で楽しかったことは、実験で着色料についてやったとき、着色料があるものと無いものと比べたとき、あるものより無いものの方が毛糸の色がよく付いたことです。

一番考えさせられたことは、「たくあん」でどちらを自分なら買うかについてです。

私は今回の情報についての学習で学んだことは、情報を利用する際に二つ以上の情報を見たり聞いたりすることと、食については裏の表示を見ること、信頼できる所が出している情報を使うことです。

B児

私がこの学習をやって、学んだことが2つあります。

最初に、「情報」のことについて学習しました。まず、情報とは何かを考えました。

情報とは、「特別な関係で手に入れたその面で必要と、される知識。考えや行動のもとになるもの。」です。

しかし、情報を取り入れるとき、気をつけなくてはいけなことがあります。情報を集めるときはTVや新聞、ラジオなどを使います。情報を選ぶときは、1つの情報ではなく、2つ以上の情報を集めて本当か、確認します。

情報を発信するときは、情報を選ぶときにやった2つ以上の情報を集めてから発信します。このとき、本当か確認しないと、ウソになってしまうので、確認をちゃんとしないてはいけません。

次に、「食の安全に関すること」について学習しました。今回の食の安全にかんする学習で、私が学んだことは、食には、安全であるものと、安全でないものがあると、ということです。「その食品を売っているお店は問題になった食品が、売れなくなるほどのことになる。」ということも、お店にインタビューをして学びました。

また、私が一番楽しいと思ったことは、班でやった実験です。私の班は、亜硝酸テスターで、野菜にはっている農薬の量を調べる実験でした。そのなかで、班のみんなで協力してやるのが楽しかったです。また、一番苦労したのは、みんなでまとめるときです。みんなでまとめるとき、何を書くかなどを考えるのが大変でした。

私は、今回この学習をして、食の安全と様々な情報を買い物をするときにいかしたいです。

6. カリキュラム開発した教材について

6.1 単元名「くらしを支える情報」

6.2 単元の指導目標

- 我が国の情報産業や情報化の様子について具体的な事例を取り上げて調べ、国民生活との関わりをとらえることができる。
- 身の回りにはさまざまな情報があり、それが身近な生活場面で役立てられていることに気付くとともに、情報を主体的に収集・選択して活用することや、表現することの大切さについて考えることができる。
- 通信などの産業に関する写真や図表などの資料を収集・選択し、情報の伝達や活用の様子をとらえるほか、伝えたい情報を効果的に表現することができる。

6.3 単元の評価規準

ア 社会的事象への関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断	ウ 観察・資料活用の技能・表現	エ 社会的事象についての知識・理解
●日本の情報産業や情報化の様子に関心をもち、情報がどのように自分たちの生活に関わっているかについて調べたり、情報を有効に活用したりしようとする。	●身のまわりにある情報が、さまざまな生活場面で役立てられていることに気付くとともに、情報を主体的に収集・選択して活用したり、表現したりすることの大切さについて考えることができる。	●食の安全に関する写真や図表などの資料を目的に合わせて収集・選択し、自分たちの生活にどのように生かすかを考え、自分の考えを効果的に表現することができる。	●日本の通信などの産業の様子や、国民生活との関わりがわかる。

6.4 指導観

(1) 単元観

- ①食の安全に関する情報を身近な事例として取り上げ、情報を仕事に役立てたり、情報を伝えたりする人たちの姿を通して、国民生活を支える情報のしくみとはたらきを的確にとらえられるようにする。
- ②食の安全に関する情報を手掛かりとして、調査・見学活動を効果的に取り入れながら、これらの仕事と情報との関わりを具体的に追求できるようにする。
- ③調べたことをもとにして、自らの考えを表現する活動に取り組む中で、情報を主体的に収集・選択して活用することや、情報の受信者・発信者として大切なことについて考えられるようにする。

(2) 児童観

児童は、本単元で取り上げた食の安全性に関する情報について、マスメディア等を通して触れている。しかし、目的意識をもって情報を収集しているわけではないため、これらの情報が日常生活の中でどのように生かされているかを理解していない。

また、日頃からたくさんの情報に囲まれて、何気なく利用はしているが、主体的に情報を役立てようという意識まではもてていない。

まずは、身近で具体的な手がかりから、くらしを支えている情報に関心を向けさせていくことが必要である。

(3) 教材観

本単元では、児童の日常生活に身近な食の安全性に関する情報を取上げ、情報の活用・伝達という観点から関連付けて学べるように構成した。

そして、これらの情報に影響される学校給食に関わる人たちや、家庭の人たちが、食に関する情報を生かしている姿や、生産者やマスメディア、公共機関の情報提供サービスの情報発信の姿をとらえさせていく。

このような消費者と情報との関わりを調べていくなかで、児童は自分のくらしに情報が果たしている役割や、情報の受信者・発信者としての在り方にも目を向け、考えていくことができる。

6.5 年間指導計画における位置付け

(単元設定の理由)

- (1) 情報という概念は、言葉だけではとらえどころがなく、ややもすると抽象的な学習になりがちである。児童の日常生活の中から、できるだけ具体的な場面を取り出し、情報を目に見えるものにしながら、そのもつ意味や役割について考えられるようにしていくことが大切であると考え、昨今、世論をにぎわす、食の安全について取り上げることをとした。
- (2) 本単元の内容は、既習の「食料生産」や「工業生産」の学習内容とも関連するところがある。たとえば、食の安全に関する情報を

生かしている人々は、これらの産業に関わりがあるし、ニュース番組の内容にも、これらの産業に関する報道が多い。情報は、生産と消費をつなぐ役割も果たしているといえよう。必要に応じて、これまでに学習したことを振り返らせ、産業相互の結びつきについても着目できるようにしたい。

(3) また、食育の視点として、「中央教育審議会

初等中等教育分科会教育課程部会 健やかな体をはぐくむ教育の在り方に関する専門部会の審議の状況（平成17年7月27日）を踏まえて作成された食に関する指導の目標の中の「正しい知識・情報に基づいて、食物の品質及び安全性等について自ら判断できる能力を身に付ける」が本単元の学習を通して身に付けることができると思う。

6.6 単元の指導計画（6時間扱い 他、総合的な学習の時間4時間扱い）

(1) 第一時

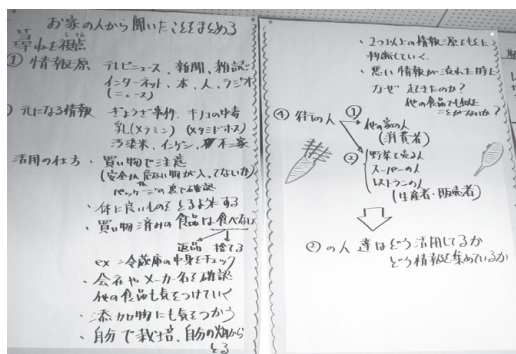
【学習活動】情報とは何か、身の回りにある情報にはどのようなものがあるかを考える。次に、身の回りにある情報の中で、食の安全性に関する情報のうち、どのような情報が気になるかを

話し合い、自分たちやお家の人、街の人たちが、どのようにその情報を活用しているのか問いをもつことができるようにする。

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
自分たちの経験をもとに、どのような時に食の安全性に関する情報について気になったかやどのような方法で情報を知ったかを話し合おうとする。	おうちの人たちや街の人たちがどのように食の安全性に関する情報を活用しているか、考えることができる。		



【自分たちの経験をもとに話し合う児童】



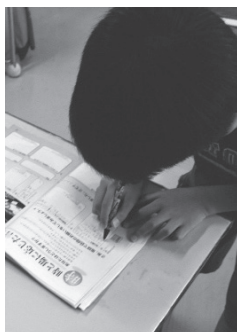
【お家の人から聞いた児童の意見を教員が模造紙にまとめ共有化】

(2) 第二時

【学習活動】街の人たちがどのように食の安全性に関する情報を活用しているのかについて、調

べる計画を立てることができるようにする。

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
意欲的に調査に取り組んでいる。			取材のときの注意点を理解することができる。



【左 インタビューに向けてアポイントメントをとる児童】
 【中 心のノートで学習したことをもとに電話のかけ方を確認する児童】
 【右 課外に街に出てインタビューする児童】

(3) 第三時

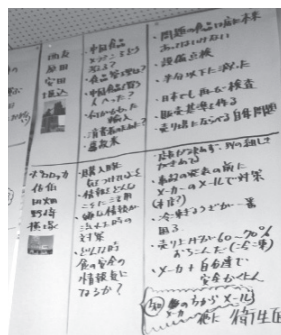
【学習活動】 街の人たちに取材したことをまとめる中で、街の人たちが食の安全に関する情報

を入手し、様々な仕事や暮らしに役立てていることに気付くことができるようにする。

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
		注意点に気をつけながら取材することができる。	街の人たちが食の安全に関する情報をどうやって知り、どう役立てているか考えることができる。



【調べたことを発表する児童】



【児童が調べたことを教員が模造紙にまとめ共有化】

(4) 第四時

【学習活動】 食の安全に関する情報について、新聞記事から読み取り、複数の資料を読み比べ

る、関連付けることの大切さを理解することができる。

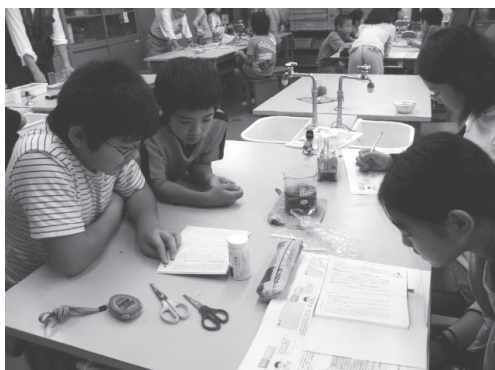
関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	自分とは異なる考えの資料を読み、複数の資料から情報を得ることの大切さを考え、指摘することができる。		

(5) 総合的な学習の時間（4時間）

【学習活動】食の安全に関する情報を自分の生活に活かす方法を検証し、結果を整理して発表する。

【第1、2時】

■班ごとに取り組む実験内容を決定することができる。



【テキストを見ながら班毎に異なる実験を行う児童】

■見通しをもち実験し、食の安全に関する情報を生かした取り組みについて検証できる。

【第3、4時】

■収集（検証）した情報を整理し、自分たちの考えや意見を入れながらまとめることができる。



【寒天培地を作り、手の菌を培養する児童】



【実験結果をポスターにまとめる児童】



【実験結果を班ごとに発表する児童】

(6) 第5時（※本時案は8を参照）

【学習活動】食の安全に関する情報を自分の生活にどのように生かしていくかを実際の場面を

想定して考えることができる。

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	食の安全に関する情報を生かし、自力解決や話し合いで自分なりに食品を選択できる。		



【身近な食品を使い、学習した指標をもとに食品を選択し考えを出し合う児童】



【児童の食品の選択の仕方について助言するとともに、給食について説明する栄養士】

(7) 第6時

【学習活動】 これからの社会の中で情報の果たす役割について考え、情報の受信者や発信者と

して、情報をくらしにいかしていくために大切なことをとらえることができる。

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	今までの学習をもとに壁新聞やWebページで情報を発信する際に大切なことや気を付けることを考えることができる。		

6.7 本時（全6時間中の第5時間目）(他 総合的な学習の時間4時間)

(1) 本時の目標

食の安全に関する情報を自分の生活にどのように生かしていくかを実際の場面を想定して考

えることができる。

(2) 本時の展開

	■学習活動 ・学習内容	◇指導 ★評価
導入	■これまでの学習を振り返ろう ①これまでに学習した流れを振り返り、本時のめあてを知る。(2分)	◇本時迄の学習内容を掲示物などで想起させる。 ◇食品に関する情報は新聞などのマスメディアの情報だけではないことに気付かせる。
展開	■食の安全に関する情報を活用しよう ②これまでの取材や学習をもとに、食の安全に関する情報を活用し、食品を選択してみよう。(10分)	◇班ごとに1課題ずつ、食の安全に関する情報を活用する課題を与える。 ◇選択にあたり、実物が用意できるものは用意する。 ◇一人一人が自力解決する時間を確保し、自分なりの考えをもってから班で話し合いに臨ませる。 ★【思考・判断】食の安全に関する情報を生かし、自力解決の時間や班での話し合いの中で自分なりに食品を選択することができたか。(課題を終えた班には、別の課題を選択させることも考えられる。) ◇一方の食品を選択した際には、もう一方の食品を選択するメリットがないかも考えさせる。そのことにより、食品選択の仕方を深めさせる。 ◇食品を選択させる際には、食品表示などよく見るように指導する。 ◇児童がどのような理由で食品を選択したか、班の中で意見交換をし、検討する。

<p>班の中で考えたことを意見交換し、検討しよう。(10分)</p> <p>③食品の選択について、児童が考えたことを班の中で交流し、自分たちの意見を検討する。各班で考えたことを共有しよう。</p> <p>④食品の選択について、各班で考えたことを全体で共有する。(15分)</p> <p>■担任又は栄養士話を聞き、自分の考えを深めよう。(5分)</p> <p>⑤担任又は栄養士話を聞き、今後自分が食の安全に関する情報をどのように生かしていくかについての考えを深める。</p>	<p>◇班の意見として無理にまとめるのではなく、必要に応じて意見がわかれたことを報告させる。(他の班の発表に対して、意見がある児童からも発言させる。)</p> <p>◇児童の意見にからめながら、食の安全に関する情報をどのように生かしていくかを担任又は学校給食の献立を考える栄養士の立場から助言する。</p>
<p>まとめ ■本時の学習を振り返ろう (3分)</p> <p>⑥自分たちで食品を選択したことや、各班の意見、担任(栄養士)の話などをもとに、今日の学習を自分の言葉で振り返る。</p>	<p>◇食の安全に関する情報を自分の生活に活かすためのポイントはどのようなものかを自分の言葉でまとめ、表現させる。</p>

7. 研究の成果と課題

7.1 成果

- (1) 食育のみをあえて取り上げるのではなく、各教科・領域の中で実践することにより、幅広い実践が考えられるきっかけとなった。
- (2) 児童が、食についての情報に敏感になり、実生活に役立てようとする態度が身に付いた。
- (3) 情報(特に食に関する)を鵜呑みにせず、多方面からの情報を取捨選択したり、進んで情報を得ようとしたりして、それをもとに自分で判断しようとする態度が養われてきた。
- (4) 時事問題を取り上げることで、児童の興味関心が高まることが実証できた。
- (5) 栄養士の専門性を活かし、児童が正しい知識を得ることができた。

7.2 課題

- (1) 今回、教科書の内容を大幅に変更し教材化を図ったが、今後、毎年行っていくには、先を見通し継続性をもって計画を立てていく必要がある。
- (2) 資料の取り扱いに注意したい。資料には難解な語句が多く、児童によっては資料を有

効に活用できないこともあった。以後改良の余地がある。

- (3) 新学習指導要領の社会科のねらいに沿った形で学習過程を組んでいったが、現行の指導要領に基づく教科書で扱っている内容では不足する部分があり、移行措置期間中は、適宜必要な事柄を補って学習を展開する必要がある。

参考文献

- 1) 「教育課程部会におけるこれまでの審議のまとめ」、中央教育審議会教育課程部会、平成19年11月7日
- 2) 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」、中央教育審議会、平成20年1月17日
- 3) 「小学校学習指導要領」、文部科学省、平成20年3月
- 4) 「小学校学習指導要領解説 総則編」、文部科学省、平成20年8月
- 5) 「小学校学習指導要領解説 社会編」、文部科学省、平成20年8月
- 6) 「小学校学習指導要領解説 特別活動編」、文部科学省、平成20年8月
- 7) 「小学校学習指導要領解説 道徳編」、文部科学省、平成20年8月
- 8) 「小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」、文部科学省、平成20年8月

- 9) 「食に関する指導の手引」、文部科学省、平成19年3月
- 10) 「食に関する指導資料集 ～改訂版～」、東京都教育委員会、平成20年1月
- 11) 「心のノート 小学校5、6年」 文部科学省
- 12) 「情報モラル教育を推進するための指導・助言資料集」(校長・副校長・指導主事用)、東京都教育委員会、平成18年3月
- 13) 「授業を変える 子ども(供)を生かす 評価・評定Q&A、東京都教育委員会、平成15年10月
- 14) 「適正で信頼される評価・評定にかかわる資料」、東京都教育委員会、平成20年6月
- 15) 「児童・生徒の考える力・伝え合う力をはぐくむ授業づくり－言語活動の充実を通して」、東京都多摩教育事務所、平成20年
- 16) 東京都多摩地区教育推進委員会第14次計画(通算第35年次)報告書、東京都多摩教育事務所、平成21年2月
- 17) 教育課程編成資料、文京区教育委員会、平成19年3月
- 18) 小学校 社会科教科書 教育出版 東京書籍 大阪書籍 光村図書 日本文教出版
- 19) 小学校 社会科指導書 教育出版